

まとめ及び本調査に向けて

目標や内容、評価の観点との整合性が図られているか

「総合的な学習の時間」の改善に向け、見直しの必要がある観点として、「評価」「育てたい資質・能力」「課題やテーマ」に関するが多く挙げられていた。先に触れたように、評価をしようにもその対象となる学習目標や指導のねらいが定まっていなければ、適切な評価を行うことはできない。ましてや、児童生徒にどのような資質や能力を身に付けさせるのが具体化されていなければ、児童生徒にとって価値や意味のある課題やテーマ（学習内容）を設定し指導することはできない。自校の「総合的な学習の時間」の目標や学習内容、評価の観点や規準、方法等、整合性が図られているか、改めて点検していくことが大切である。

本調査では、このことに関する各学校の取組や実施状況の傾向をつかむことにする。

「育てたい資質・能力」と教科等との関連、他校種間のつながりが図られているか

「総合的な学習の時間」では、教科等で身に付けた知識や技能、学び方等、基礎・基本を生かしたり応用したりして学習を進めることが大切である。児童生徒は、各教科等で培われたものの見方や考え方、知識、学び方や技能を駆使して、目の前の問題や課題をよりよく解決していく。そこには、それまでの経験を踏まえた判断力や創造力が働き、新たな意欲や挑戦心がわいてくる。また、「育てたい資質・能力」が、児童生徒の発達段階に応じて設定され、小中高の連携が図られることにより、「確かな学力」として児童生徒に身に付いていく。

「総合的な学習の時間」における育てたい資質・能力や学習内容が、教科等の基礎・基本と関連して設定されているかどうか、他校種とのつながりが図られているかどうか、本調査で実態を把握しておきたい。

指導と評価の一体化、及び授業改善に生かす評価が図られているか

児童生徒の「関心・意欲」や「思考・判断」などの見えない学力を評価したり自己評価力を高めたりするのに、ポートフォリオ評価は有効であり、学習相談等による個に応じた指導と評価を取り入れることによって、より効果が上がる。また、外部協力者からの評価も児童生徒の学習意欲を高め、自信をもたせることにつながる。さらに、評価活動を指導の改善や活動計画の修正、あるいはカリキュラム全体の見直しに生かすことによって、この時間の充実が一層図られるものとする。

このことは、「総合的な学習の時間」における評価だけに限ったことではないが、この時間の評価をどのように生かしているか、本調査の質問項目の一つにしたい。